体験型海外教育実地研究　第６学年　異文化理解
「Your familiar thing changes into Japanese Monster!?」

教育学研究科　学習科学専攻　カリキュラム開発専修　黒川　麻実

１　はじめに

今回体験型海外教育実地研究を通して私は自身に改革を起こしたいと思った。それは，教育観の変容であったり，自身の実践的知識の向上，異国でも通用するようなコミュニケーション能力の育成や自身の生き方など，とにかく大学院のうちに自分の内面を広げていきたいと思っていた。その際，体験型海外教育実地研究の説明会に参加し，プログラムのうちの特に海外の現地の学校で授業を行うという経験は中々できるものではないと思い，参加を決意した。

２　実地研究の日程と概要

月日	曜	交通等	訪問地・用務等	宿泊地
4/24	水	渡航までの日程，パスポート，ESTA，授業研究テーマ事例，　部屋割り		
5/15	水	授業研究テーマ案の交流・テーマの設定		
6/ 6	木	学習指導案の検討		
6/11	火	学習指導案の検討		
6/24	月	学習指導案(英語版)の検討		
7/ 1	月	学習指導案(英語版)の検討		
7/ 6	土	第９回学校間交流国際フォーラム		
7/ 7	日	ワークショップ：学習指導案および教材・教具の検討		
7/22	月	保険説明（学習指導案の検討，指導案の提出について）		
7/23	火	保険説明（学習指導案の検討，指導案の提出について）		
8/26	月	準備状況確認，報告書・教材集・発表会について，渡航準備・関係書類提出		
9/ 9	月	最終事前打ち合わせ（準備状況，準備物・集合時刻等の確認）		
9/14	土	広島―成田 0755-0935 (NH-3236) 成田―ワシントン　ダラス 1105-1040 (NH-2) ワシントン　ダラス―ローリー 1220-1329　(UA-4880) 空港 ―（ウォーレン先生・ECU バス）→City Hotel & Bistro		アメリカ・ノースカロライナ州 City Hotel & Bistro 203　W.　Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 TEL(877)2712616 Greenville
9/15	日	（ウォーレン先生・バス）	ミーティング，ホテルにて教材作り 各学校の先生方と事前打ち合わせ レセプションパーティ	Greenville　同上
9/16	月	CityHotel →C.M.Eppes 中学校へ （ウォーレン先生・バス）	学校訪問（C.M.Eppes 中学校） 副校長先生による学校の概要の説明 授業実践(黒川：70 分近く授業を行う) 授業見学(松尾，藤井) 午後，ECU 訪問，見学 大学図書館，リソースセンターの見学 日本を訪問した ECU の大学生と再会する	Greenville　同上
9/17	火	CityHotel →C.M.Eppes	学校訪問（C.M.Eppes 中学校）	Greenville　同上

		中学校へ （ウォーレン先生・バス）	授業見学：Orchestra,Band,P.E.,Math 会合：Instrucutional Coach の Jeff Bell 先生から仕事内容やアメリカの学校教育の現状についてのお話を伺う 夕食時，ECU 付属のスタジアムにおいて，各学校の先生方と交流を図る	
9/18	水	City　Hotel → ECU （ウォーレン先生・ECU バス） ECU → ローリー（ECU バス）	午前　ECU の講義に参加 現地の大学生とアメリカと日本の学校教育の違いなどについて話し合う 午後　ローリーへ移動 ノースカロライナ州議事堂，ノースカロライナ歴史博物館，教会などを見学する	ノースカロライナ州 Clarion Hotel State Capital 320 Hillsborough Street Raleigh，NC 27603 TEL(919)8320501Raleigh
9/19	木	徒歩で，Exploris M.S.へ	学校訪問(Exploris M.S.) 午後　ローリー市内見学	Raleigh（同上）
9/20	金	ローリー—ワシントンダラス 1021-1134　(UA-4887) （空港－ホテル間はタクシー）	ワシントンへ移動 アメリカ文化体験	Washington Plaza 10 Thomas Circle, Northwest, Washington,DC 20005-4176 TEL (202)8421300 Washington, DC
9/21	土	徒歩	アメリカ文化体験 Book　Fair を開催していたので見学する 国立スミソニアン博物館では，国立航空宇宙博物館，国立自然史博物館，ナショナル・ギャラリー・オブ・アートを見学する	Washington　DC(同上)
9/22 9/23	日 月	ワシントンダラス—成田 1220-1525 (NH-1) 成田—広島 1740-1915 (NH-3237)		

３　実地研究授業

3.1　単元名　第６学年　異文化理解「Your familiar thing changes into Japanese Monster!?」

3.2　事前準備

①　単元設定の理由

本授業では，日本の伝統的な民族的信仰文化の一つである「妖怪」や「付喪神」について理解や知識を深め，また身近な物を使用し，自分達で「付喪神」を作り上げることを目的としている。日本特有の民俗信仰文化である「妖怪」は，恐ろしい姿形や怪奇を引き起こす，また人間が作り出した空想の存在という点では，諸外国にいる「monster」や「goast」と似ている。しかし，日本の「妖怪」には，古くの日本人が考えた教訓や戒め，願いなどが込められている。特にその中でも「付喪神」は，「物を大切に扱う」という教訓から生まれた妖怪である。

本授業では，この「妖怪」や「付喪神」について子どもたちに知ってもらうことで，日本独特の文化や考え方について理解を深めさせるという目的がある。また，自分の身近な事物で「付喪神」を作ることで，自分の身の回りの物の扱い方について今一度，考えさせたいと思った。

②　準備したこと

授業構想段階では，妖怪の由来，歴史を調査し，博物館などを訪問し，まず自身の知識を深

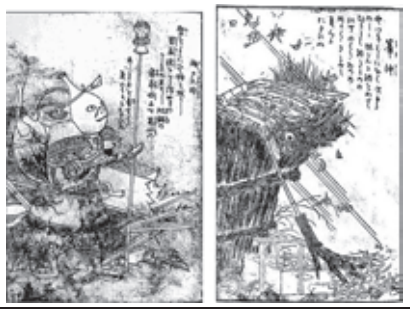
めることから始めた。妖怪とは無形概念のため，写真資料や目に見えてわかりやすい具体物を提示できるように，様々な妖怪の資料を用意した。

また，向こうでの活動に使用する，目玉，口，鼻，粘着テープなどの付喪神作成キットやワークシートを用意した。

3.3　学習指導案

Lesson: Your familiar thing changes into Japanese Monster!?
Lesson author: Mami Kurokawa
Date: September　16th,2013
Grade levels:6th
Subject: culture
Description: In this class, students will learn about a kind of Japanese　culture, Japanese monster ”YOUKAI” “YOUKAI” is an imaginary monster. Old Japanese people believed that.“YOUKAI ” legends contain a lesson. Although there are many kinds of “YOUKAI”, I pick up “tools monster, TSUKUMO” this time.“Tools monster, TSUKUMO” represents the idea to make good use of things you have and not to throw them away easily.　By learning about “TSUKUMO” and creating their own “TSUKUMO”, students will learn the spirit not to throw things easily.
Objects: As the result of this activity, students will be able to
(1)Get to know “TSUKUMO” that is a traditional Japanese monster.
(2)Try to imagine and make their own TSUKUMO with their familiar things.
(3)Cultivate the spirits of making good use of things you have.
Procedure

Activity	Teacher’s activity	Materials
Know about “YOUKAI”	Let know about “YOUKAI”, a kind of Japanese culture (1)Students look at a “YOUKAI” costume by the teacher and have interest in “YOUKAI”. (2)have some rough ideas about “YOUKAI” (3)learn that “YOUKAI” is taken over by people in animation and character.	Costume picture 1
Know about ”TSUKUMO” a kind of “YOUKAI” (1)Quiz time And tell the answer (3)Think about	Learn about “TSUKUMO” by quizzes. (1)Ask students if they know these characters and what their original forms are. This character is the man transformed into a thing or casts a spell on a thing or a person. It is said that the things which were used for a long time changes into “TSUKUMO” and if you use them carefully, “TSUKUMO” do good on you. But if you use them poorly, “TSUKUMO” will have	Sheet 1

different points between anime characters and “TSUKUMO”	bad spirits and do harm on you. So “TUKUMO” teaches a lesson about the importance of making good use of things you have and don’t throw them easily. 	
(5)try to make TSUKUMO by familiar things.	(1) Introduce other TSUKUMO. (2) Show some items. (3) Students select familiar things in the classroom. (4) Students stick items and make their own TSUKUMO (5) Let students think about their own TSUKUMO’s characters. For example, if I choose a light as my familiar item, the light can turn into TSUKUMO like this. Its name can be “Light man”. Light man is a very kind TSUKUMO which gives us light but if I turn him on all day long, he has to be awake all day and cannot sleep and gets tired. So we need to try to turn him off frequently. (6) The teacher shows how to introduce TSUKUMO	Some items Work sheet
(7)Wrap up	Tell students that Japanese children are taught about TSUKUMO and the importance of the spirit to take good care of the tools around us from their grandparents or other older people. Thus, the spirit not to throw things easily is passed on to younger generation.	Picture

3.4　授業の実際

(1) 河童の恰好（コスプレ）をすることにより，河童の概観や，現代に引き継がれる妖怪がアニメや漫画などに引き継がれていることを説明し，本授業の内容に興味を持たせ，本授業の概要を掴ませた。

(2) 河童を妖怪の一事例に，妖怪の歴史や種類，民族的信仰文化としての側面を，写真を交えながら説明した。質問も多く出て興味津々の様子だった。特に，アニメに興味のある生徒が多く，妖怪のアニメを紹介すると非常に興味を示していた。

(3) 妖怪の一種である付喪神について，これらの妖怪の原型は何か，付喪神は道具の妖怪であること，物を大切にしないと身近な物が妖怪化するという昔の人々の教訓について，ワークシートを用いディスカッションをした。妖怪の原型についてはクイズ形式で楽しく回答できていた。

(4)ディズニーにおける「魔法の箒」等のキャラクターと付喪神との違いについて考え，付喪神は粗末に扱われた道具の「化ける」と，「魔法」とは少し違うという点について押さえた。

(5)持参した目玉や口や耳などのパーツと接着テープを使用しながら実際に付喪神を教室の中の物を使って想像し作成した。活動には非常に意欲的で「先生，見て見て！」「まだ作っていい？」など非常に楽しそうな様子であった。また，付喪神の性格や，粗末に扱われた時の行動についても一緒に考案させた。

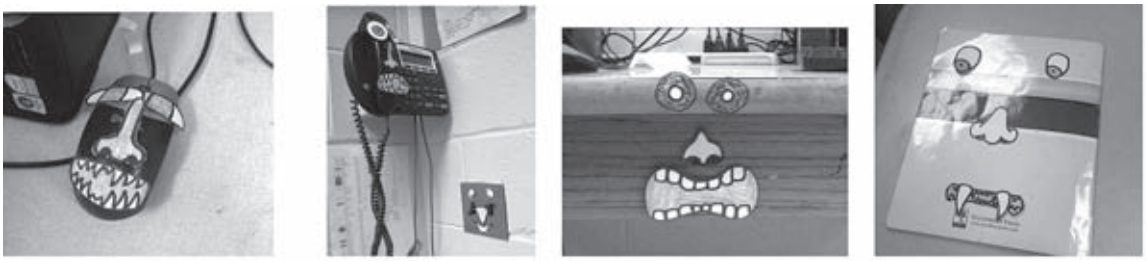
(6)作った付喪神について教室の中で発表し合い，付喪神の持つ教訓について再度確認した。

3.5　考察

成果としては，以下のことが挙げられる。

一つ目は，クイズや話し合い，付喪神作りなどの多様な活動を盛り込むことによって生徒が積極的に授業に参加することができ，また体験的に妖怪について学ぶことが出来ていた。活動と説明のメリハリをつけることで生徒に授業に集中させることができた。二つ目は，念密な事前準備や授業構想等を行った結果，活動もスムーズに行うことができ，また事前に集めた資料や写真などが功を奏し，生徒にわかりやすいイメージを持たせることが出来た。また TT のオリヴィア先生と事前に打ち合わせが出来ていたこともあって，語彙や説明の足りない部分を生徒たちに補って下さり，活動内容の多い指導案ではあったがテンポよく進めることが出来た。

課題としては，一つ目は，授業直前にパワーポイントが作動しなかったり，活動に時間がかかったりと，時間配分の想定が甘く，最後のまとめに時間を割くことがあまりできなかったことが挙げられる。授業中のトラブルに対し，柔軟に対応をすること，また様々な場合を想定しておくことの重要性を感じた。二つ目は，活動自体は子どもたちは楽しそうに取り組めていたが，「自分なりの monster を作る」ことに意識が向き，「付喪神を作り，性格や行動を考えることで身近な物を大切にしようとする精神を養う」ことまで達成できた生徒は，僅かなのではないかと思われる。「何のために活動させるのか」を考え，活動を生徒に行わせるべきであった。付喪神作成の活動については【図 1】 のように身の回りのもので，たくさんの付喪神たちを作ることが出来ていた。



【図 1 eppes 中学校の 6 年生が作成した付喪神】

4　体験型教育実地研究における自己変容

4.1　教育観の変容

実際に現地の学校で授業を実施し，また学校訪問を行えたことで変容した教育観のうちの一つについて取り上げたい。それは，アメリカの教育現場における「人と違うこと」に対する姿勢である。訪問した学校では，アメリカ人の他に，アジア系やスペイン系など，たくさんの人種の子供達が存在し，一緒の教室で学んでいた。英語が苦手な生徒に関しては，補習クラスを開校したりと，「違うこと」をマイナスに捉えず「プラス」に捉えていこうという姿勢が見られた。

また，自分で自由に学びたい教科が選べたりと，「苦手な部分を補う」よりも「得意なことを伸ばす」方に教育のベクトルが向いているように感じた。この，「人と違う」「出来ない」ことを排他的に捉えないこの姿勢こそ，今の日本の教育現場に必要ではないかと思う。

4.2　自分自身についての変容

私はもともと，海外での言語感覚の違いや異文化理解というものに興味があり，自分がどのくらい自分の思いを伝えることができるのか，チャレンジしてみたいと思っていた。結果，コミュニケーションをしっかり図ることができたと自負しているが，その中で自分の日本での言語使用や授業における短所について再確認することができた。例えば，導入に時間をかけすぎてしまう授業スタイルや，その場で”わかったふり”をしてあとから困ってしまう自分のコミュニケーションの癖である。実践は経験の積み重ねと言うが，私はここでの経験を生かして自分の変容を，確実に良い方向に自分の中に積み重ねていけるように努力していきたいと思う。

4.3　グローバルマインドに関する変容

言語の違いは，コミュニケーションを取っていく上で非常に大きな障害になることは明らかであるが，その言語の違いを乗り越えた時に，そこにあるのは「他者を理解していこう」という言語を越えた「グローバルマインド」が重要になるということを今回改めて実感した。授業の中でも，TT のオリヴィア先生も，生徒達も，私の英語を一生懸命聞いてくれ，理解しようとしてくれた。これは，授業外の場面においても，この 10 日間の研修の中で，この「言語を越えて，理解し合う姿勢」を感じることがたくさんあった。これは日本に帰っても，言語の違いがないからこそ，そして，インターネットなどコミュニケーション形態が変貌していくこの世の中で，「グローバルマインド」の感覚を持ち続け，教育実践や様々な場面で望んでいくべきであると私は思う。

5 おわりに

今回の体験型海外教育実地研究を通して，様々な出会いがあった。出会いは授業準備や事前の話し合いから始まり，それは教材の妖怪たちであったり，現地のオリヴィア先生や生徒であったり，一緒にいった仲間の院生や引率の先生方，アメリカの風土，文化，そしてたくさんのサポートをしてくださった，ウォーレン先生と，とにかく様々な出会いにめぐまれ，それは自身の成長へと繋がっていった。その全ての出会いに感謝し，これからの実践や研究の糧にしていきたいと思う。本当にありがとうございました。